

2 企業

- (1) 株式会社内田洋行
- (2) コールド・ストーン・クリーマリー・ジャパン株式会社
- (3) 毎日新聞社
- (4) ホテル業（都内）
- (5) ミヨシ油脂株式会社

株式会社内田洋行

1 プログラムの概要・特徴

名称	ビジネスインターンシップ
時期	夏期休業中（8月末～9月上旬）
期間	原則2週間
対象	大学（院）生
人数	30名程度
受入大学等	<u>ビジネスおよび採用活動上、実績のある大学</u>
受入部署	販売部門、商品企画部門、開発部門、調査・研究部門、コーポレート部門、海外事業部門、グループ会社
研修内容	<ul style="list-style-type: none">・初日の開校式と最終日の成果発表会を合同で実施・2日目からはテーマ別にそれぞれの部署でテーマに沿った研修を実施・販売部門では、<u>営業同行</u>、顧客からのヒアリング等を通じてレポートの作成・商品企画部門では、<u>新製品の提案やカタログ構成案を作成</u>・開発部門では、社内のスペースをデザイン・設計を担当 などを体験・最終日に成果発表会を全コースで実施する。
経費・報酬	支給なし ※実習に際しての費用はすべて当社負担

2 導入の背景・経緯

制度として全社的に受け入れを開始したのは平成16年から。それ以前は、営業活動の際、大学からの依頼を受けて、関連部署で受け入れを行っていたが、会社として全社で広く学生を受け入れようと考え、制度化した。

3 導入、実施にあたって苦労した点、課題

導入当初は、現場、指導担当者に負担がかかり過ぎるのではないかと懸念があり、コンセンサスがなかなか得られなかった。

学生のやる気や能力のレベル差が大きく、どの学生に標準をあわせて指導をすれば良いか対応に苦慮した。

大学によって実習計画書など手続きに必要なフォーマットが異なるので、その作成にかなりの時間を要する。

4 運用の実態と課題

A.受入窓口：インターンシップ事務局（平成17年度より設置）

B.募集方法：ビジネスおよび採用活動上、実績のある大学に対して告知

C.選考基準：原則、大学で選考を実施。大学から複数名の推薦があった場合は、書類選考を実施

D.採用との関係：関係がない

E.学生の地位（雇用扱いなど）：雇用扱いしていない

F.指導体制等：各部門の長を指導責任者として、指導担当者が実際の学生の指導を担当

G.評価方法・内容：大学指定の評価表がある場合は、その様式に基づいて評価。また、会社独自の評

評価シートに基づき受入担当者が評価を実施。大学指定の評価表がない場合は、その評価シートを評価結果として送付

H. マニュアル等の整備：大学により手続き等が異なり一律なマニュアルが作成できない
実施までの流れなどは定めているが、実際は大学により個別対応が必要

I. 大学・学生等との調整・協議：大学との覚書や学生の履歴書等、大学と会社どちらのフォーマットを利用するか調整が必要。

5 リスク・トラブル予防・対応策

トラブル等：特になし。

予防・対応策：大学との覚書の締結，事故に備えて学生の保険加入など。

6 導入の効果・成果

学生の手本になる必要があるという意識が生まれ，社員の業務認識と意識が高まり，インターンシップ期間終了後もしばらくその意識が続く。

若手社員が部下を指導する良い研修になり，社員の能力が伸びる。

7 大学等への要望

意識の高い学生を推薦して欲しい。実習生として参加する学生の中には、単位が取ればよいという学生も中にはいるので、学生の意識向上などをしっかり図って欲しい。

可能な限り、各種書類については当社のフォーマットを利用いただきたい。

8 インターンシップ以外での大学等との連携協力

大学との共同研究

授業への講師派遣

社内見学の受入 など

コールド・ストーン・クリーマリー・ジャパン株式会社

1 プログラムの概要・特徴

名称	インターンシップ
時期	春・夏期休業中
期間	1ヶ月間
対象	大学生
人数	5名程度
受入大学等	直接依頼のあった特定の大学
受入部署	経営企画部
研修内容	・企業概要・企業文化などのオリエンテーション ・店舗での接客等の実働業務（1週間） ・顧客マーケティング等（調査内容・項目の設定、実地調査、分析、発表など） （3週間） ※研修内容はその時のニーズに合わせて対応
経費・報酬	交通費と昼食代

2 導入の背景・経緯

平成19年の春から受入を開始した。大学が開催する就職セミナーに参加した際に、大学関係者からインターンシップの受入を打診されたことがきっかけ。

3 導入、実施にあたって苦労した点、課題

学生は、業務内容等初めての職業に携わるため、企業ポリシー等を説明したり、学生を導いたりすることに非常にエネルギーを使う。

4 運用の実態と課題

A.受入窓口：人事担当部門

B.募集方法：特定の大学からの要請

C.選考基準：大学から推薦された学生の中からオーディション（面接）を行う。お客様の視点を大切にし、社員として働いてもらいたいと思う学生を受入

D.採用との関係：関係がない

E.学生の地位（雇用扱いなど）：雇用扱いしていない

F.指導体制等：副社長を指導責任者として、トレーニングマネージャーが細かな指導を実施。店舗での研修の際は店長が指導担当役になる。

G.評価方法・内容：研修の最後にエッセイを作成。大学指定の評価表に基づき評価を実施

H.マニュアル等の整備：特に整備していない

I.大学・学生等との調整・協議：大学からは、単純作業に終始しないよう学生がビジネスを学べる内容のプログラムを実施して欲しいとの要望がある。

5 リスク・トラブル予防・対応策

トラブル等：特になし。

予防・対策等：大学とは覚書を取り交わす。学生からは守秘義務等を守るよう誓約書を提出してもらう。

6 導入の効果・成果

学生を通じて会社の PR ができる。

学生が非常に優秀で、研修中に行った満足度調査の結果などが役立っている。

7 大学等への要望

学生に対して、企業のアピールをもっとさせて欲しい。

8 インターンシップ以外での大学等との連携協力

従業員の採用方法やトレーニング方法が特徴的で価値があるとして、複数の大学と、企業の人事関係の研究に協力している。

毎日新聞社（東京本社）

1 プログラムの概要・特徴

名称	①短期プログラム ②長期プログラム（平成20年度から試験的に実施しているもの）
時期	①夏期休業中 ②後期授業期間中（7～9月から2月頃まで）
期間	①2週間 ②3ヶ月～半年（一週間の研修日（例えば週3日）は学生の希望を踏まえ決定）
対象	大学（院）生（原則大学3年生）
人数	①15名程度 ②数名程度
受入大学等	採用実績等がある大学
受入部署	①首都圏の支局（記者職） ②事業部門（デジタルメディア局、事業本部など）
研修内容	①記者クラブ等の見学，記事のスクラップなど補助業務に始まり，最終的には掲載記事の作成まで行う ②取材の同行，文化事業等各種イベントの補助，Web掲載記事の編集，掲載記事の作成等
経費・報酬	研修で社外に出る際の交通費は，会社側が負担する。それ以外は学生自身の負担

2 導入の背景・経緯

平成13年頃から受入を開始。

3 導入，実施にあたって苦労した点，課題

短期間のインターンシップに関して，受入先である支局の人員が少ないため，負担が大きく，受入人数の拡大が難しい。

4 運用の実態と課題

A.受入窓口：人事部

B.募集方法：従来から受入を実施している大学からの要請（HP等での公募は行っていない）

C.選考基準：会社独自の選考は実施していない

D.採用との関係：関係がない

E.学生の地位（雇用扱いなど）：雇用扱いしていない

F.指導体制等：受入先所属長を責任者とし，指導監督

G.評価方法・内容：大学の評価表等をもとに学生の評価を実施

H.マニュアル等の整備：研修指導に当たっての留意点などをまとめたものを作成

I.大学・学生等との調整・協議：3月下旬：大学から受入の要請 5月下旬：受入人数決定

6月：社内の各部署に受入打診，大学からの推薦者提出 7月上旬：大学へ受入決定通知

7月下旬～：受入開始

5 リスク・トラブル予防・対応策

トラブル等：特になし。

予防・対策等：研修に関する役割分担等について大学と覚書を締結している。学生からは守秘義務等を守るよう誓約書を提出してもらう。

研修中の事故等に対応した保険の加入を確認している。

6 導入の効果・成果

長期間のインターンシップは、学生の満足度も高く、受入部署からも学生が業務上の戦力となる程の力を付け、メリットを感じられたと高評価になっている。

7 大学等への要望

2週間程度の短期間のインターンシップでは、学生はお客さん扱いで終わってしまい、受入側の負担だけしか感じられない。長期間のインターンシップでは、大学、学生、企業それぞれにメリットがある。このため、長期間のインターンシップの活用や推進が進むことを期待する。

8 インターンシップ以外での大学等との連携協力

大学等への講師派遣をはじめ多様な形で大学等と連携を図っている。

ホテル業（都内）

1 プログラムの概要・特徴

名称	インターンシップ
時期	夏期休業中
期間	2週間
対象	大学生
人数	4～5名
受入大学等	直接受入依頼があった特定の大学
受入部署	宿泊部門
研修内容	・フロント、ドア・サービス等の接客業務の補助やベットメイキング等の裏方業務の補助。 ・研修初日に学生本人の希望を聞き、できる限り希望にそった研修ができるよう調整。
経費・報酬	支給なし

2 導入の背景・経緯

5年ほど前から受入を開始。ある大学から受入依頼があり、会社として少しでも大学教育に貢献できればと考えて受入を開始した。

3 導入、実施にあたって苦労した点、課題

受け入れるまでの準備が大変だが、特に苦労した点はない。

課題としては、接客業であるため、急な来客などで多忙になると、学生の指導がなおざりになってしまう点がある。

4 運用の実態と課題

A.受入窓口：総務・人事部

B.募集方法：従来から受入を実施している大学からの要請（HP等での公募は行っていない）

C.選考基準：会社独自の選考は実施していない

D.採用との関係：関係がない

E.学生の地位（雇用扱いなど）：雇用扱いしていない

F.指導体制等：指導担当者を置き、学生の日誌等を毎日確認し、業務の理解度などを把握。また、それぞれの部署の受入担当者がサポートを実施している。

G.評価方法・内容：大学の評価表等をもとに学生の評価を実施

H.マニュアル等の整備：研修指導に当たってのとりきめを作成

I.大学・学生等との調整・協議：大学と事前に研修内容を調整し研修プログラムを策定。また、学生本人にも直接意見を聞き研修内容に反映

5 リスク・トラブル予防・対応策

トラブル等：特になし。

予防・対策等：接客業のため顧客情報等の取扱については細心の注意を払う必要がある。守秘義務等について誓約書を学生から提出を受けるとともに、研修初日のオリエンテーションでホテル業での注意事項等を伝えている。

6 導入の効果・成果

研修期間中は毎日、学生から何か疑問や発見があったかを聞くようにしている。そうすることにより、従業員としての視点とは異なる外からの新鮮な視点を得ることで、業務の再確認に役立てている。インターンシップ生がいると、より社内が活気づくため、毎年楽しみにしている。

7 大学等への要望

特に要望はない。学生が大学での勉強をしっかりして来てくれれば構わない。

8 インターンシップ以外での大学等との連携協力

現時点ではインターンシップ以外の連携協力は行っていない。

ミヨシ油脂株式会社

1 プログラムの概要・特徴

名称	インターンシップ
時期	夏期休業中（7月末～8月末）
期間	2週間
対象	大学（院）生，高等専門学校生
人数	10名程度
受入大学等	不問
受入部署	総務・人事部，技術系部署，工場
研修内容	<ul style="list-style-type: none">・当初2日間はオリエンテーションや工場見学を実施。・実際の業務の疑似体験などの内容が中心。例えば，食品技術部では，実際の商品を使ってパンやクッキーなど最終商品を作ることまで体験。・総務・人事部では，実際の業務の説明から給与計算や社内報作成を模擬的に体験。・最終日にレポートの作成及び大学等の担当教員を呼んで発表会を実施。
経費・報酬	交通費と昼食代（社内食堂の食券）

2 導入の背景・経緯

平成17年度から受入を開始した。東京経営者協会からインターンシップへの協力依頼があり，企業の社会貢献の一環として総務・人事部門で受け入れている。その後，技術系部門，平成20年度から工場でも受け入れている。

3 導入，実施にあたって苦労した点，課題

企業秘密等もあり業務の疑似体験等を内容とする研修が多くなるが，実際の業務と乖離しないよう工夫する必要がある。

通常業務の中で，学生の指導を行うため，指導担当者を決めるのが大変である。

4 運用の実態と課題

A.受入窓口：人事部

B.募集方法：ホームページを通じた募集。産学連携を行っている大学等からの依頼

C.選考基準：面談を行い，意欲のある学生を優先的に受け入れる

D.採用との関係：関係がない

E.学生の地位（雇用扱いなど）：雇用扱いしていない

F.指導体制等：受入部署ごとに指導担当者を配置

G.評価方法・内容：大学等毎の評価表の作成。学生のレポート及び発表会を総括して人事課長や指導担当者から講評

H.マニュアル等の整備：特に整備していない

I.大学・学生等との調整・協議：覚書の締結や保険加入の依頼等

5 リスク・トラブル予防・対応策

トラブル等：特になし。

予防・対応策：大学等と覚書を取り交わし、学生からは守秘義務等に関して誓約書を提出してもらっている。

6 導入の効果・成果

学生が職場に参加することで、新鮮味が湧く。また、職員が部下を指導する勉強になる。職員が各々の業務を見直すきっかけになる。

7 大学等への要望

大学等からの推薦者は、成績が優秀な学生というだけでなく、むしろ意欲のある学生を推薦してきて欲しい。

受入部署に関係する業務内容について事前にある程度勉強してきて欲しい。

学生が、仕事に対するイメージだけで研修に来ていることがあるため、大学で研修先において実際に行う業務内容がどのようなものかあらかじめ教えていただきたい。

8 インターンシップ以外での大学等との連携協力

大学等へ実験・研究の委託を行っている。